

## 初年次教育におけるリーディング指導の成果と課題 —看護学生と教員による授業評価を通して—

キーワード：初年次教育、看護学生、リーディング

○柄澤清美、中村恵子、中村圭子  
新潟青陵大学看護福祉心理学部 看護学科

### I 目的

看護学生を対象に企画した初年次教育のうち、リーディング指導 3 回の授業評価を分析し、教育プログラムの成果と課題を明らかにする。

### II 方法

1. 対象：P 大学看護学科 1 年生 90 人と「入門ゼミナール I」担当教員 8 人。
2. 期間：2013 年 5 月～7 月。
3. データ収集・分析：【リーディング指導】「テキスト読解」「要約」「意見をもちながら読む」について各 90 分、少人数ゼミ形式で演習を行う。【読み方の自己評価】チェックシート（28 項目、4 件法）を作成し、指導前後に学生よりデータを得る。指導前の結果について探索的因子分析を行い、因子を抽出する。各因子に高い負荷量を示した項目の平均値を計算して下位尺度得点を算出し、指導前と指導後の結果を比較する。【学生の授業後感想】〈ためになったこと〉と〈難しかったこと〉を記述してもらう。〈ためになったこと〉は類似する内容をカテゴリー化し、前述した因子との関係を分析する。〈難しかったこと〉は教員の評価と対応させる。

【教員の評価】学生の反応についての視点を提示し、学内ポータルサイト上に記入してもらう。

### 4. 倫理的配慮

学生アンケートは、回答の自由と個人が特定されないよう統計処理することについて書面で説明し、提出をもって承諾を得た。教員に対しては口頭で説明し同意を得た。

### III 結果

対象者全員から回答を得た。

#### 1. チェックシートの分析結果

欠損値を除いて、指導前の結果について因子分析（最尤法・プロマックス回転）を行い、5 因子を抽出し、「深く読む」「大局にたつて読む」「構造を意識して読む」「作業手順をふんで読む」「創造的に読む」とした。因子ごとの  $\alpha$  係数は 0.75～0.77 であった。すべての因子で指導前より指導後の下位尺度得点が高くなっており、特に、「創造的に読む」「大局にたつて読む」の変化が大きかった。

#### 2. 学生の感想〈ためになったこと〉

学生の記述をカテゴリー化した。各因子に対応するカテゴリーは以下の通りであった。「深く読む」コ〈言

葉の意味〉〈段階読み〉、「大局にたつて読む」コ〈主題把握〉〈要点押さえ〉〈筆者の主張把握〉〈要約⇔理解〉〈読みの方略〉、「構造を意識して読む」コ〈目次把握〉〈文のまとめり〉〈構成〉〈文の関係〉、「作業手順をふんで読む」コ〈チェック〉〈言葉調べ〉、「創造的に読む」コ〈自分の考え〉だった。また、全体を通して〈読み方の習得〉〈要約の上達〉とスキルアップを自覚し、〈他者の読み方認知〉〈自己の読み方評価〉〈読み再認識〉と読むことの認識が変化し、〈実践活用〉〈自己主張〉という点で発展的学びが得られた。

#### 3. 教員の評価

教員は、言葉を調べる習慣が不足、言葉を曖昧に捉えている、飛ばし読みをする、要点を把握できるが自分の言葉で言い換えられない、正確な読解をふまえ意見を述べることは未熟と指摘し、学生の〈難しかったこと〉とも一致した。

### IV 考察

今回の教育プログラムでは、指導後に 5 因子すべてが向上したこと、特に文章の核を捉える力であり他の因子への影響力も持つ「大局にたつて読む」に明確な変化が見られたことから、単なるスキル獲得を超えリーディングの質的向上をもたらしたと言える。

それは、学生にとって、共同でリーディングを深めたり、自己と他者のそれを比較したりという具体的な体験を通し、無意識に行っていたリーディングを意識化することによって得られた発見であった。学生は、自己成長の実感を持つことができおり、学び方を学ぶ初年次教育になったと考える。

また、今回得られた 5 因子は、リーディングを質的に評価する観点としても、向上させるための指導ポイントにも活用できる可能性を有すると考える。これを活用する指導方略については今後の課題である。

### V おわりに

現状把握されたリーディングに関する課題を、この授業の気づきのみで改善することは困難であり、日常の指導のなかで意識的に強化していく必要がある。

#### 参考文献

秋田喜代美. 読む心・書く心. 51-57. 京都市:北大路書房;2002.